

今日は変容の主日である(Transfiguration Sunday)。一年の聖なるひと巡りの日であるが、それを一時わきに置いて、私たちが知っているイエスの道を辿ってみよう。

他に同じような日に、王なるキリストの顕現日、あるいは主イエス洗礼の日がある。

今日の福音書は「変容」についてである。この日は、どのようにイエスを知り、どこでイエスと出会うのかを探りたい。イエスの栄光を仰ぎ見るのはどんな所なのか？始める前に、今日の福音書で起きいている事を一覧表にしてみる。

注意：教えではない。

何が起きているか、その一覧表を作る二つの理由がある。

最初に聖書を学ぶ時の訓練の一つで、行動を一覧表にすることである。誰が何をする？この一覧表は解釈ではないので注意をしてほしい。これは動詞や行動を求めているのだ。これは聖書を学ぶ一つの方法であり、誰にでもできる。

表に戻る。行動の一覧表として、今日の福音書の節を要約したものである。

\*イエスは弟子たちを連れて行く。

\*イエスは祈るために山に登る。

\*イエスが祈っていると様子が変わってくる。白く光り輝く姿に変容する。

\*イエスは予言者エリアとモーセと話している。

彼らはイエスについて話し始め、イエスは耳を傾ける。

\*彼らは(イエス、エリア、モーセ)、栄光に包まれる。

\*イエス、モーセ、エリアは、(イエスの)最期について話し合っている。

ギリシャ語で出発(departure)という動詞は、脱出(exodus)となる。

(奴隷、災いの苦痛、砂漠のさ迷いからの解放、これらすべては旧約聖書に書かれてある)

\*出発(departure)、エルサレムで最期を遂げる。

\*エリアとモーセは立ち去る。

\*弟子たちが三つの仮小屋を建てることを提案する(仮小屋skene つまり幕屋のことで、出エジプト記と関連している。人々が荒野をさ迷っていた頃に神を迎えた移動式幕屋)

今、行動の不在に気が付く。弟子たちが仮小屋を建てる提案すると、何が起きるのか？何も起きない。

\*仮小屋を作る、あるいは幕屋に、変容したイエスを一方所<sup>とど</sup>に止めることは、はっきりいって可能ではない。なぜならイエスと神は応答さえしていない。

仮小屋を建てる提案への返答に代わって：

\*雲が弟子たちの上を覆う。

\*神は弟子たちに、イエスはわたしの子、わたしの選んだ者と告げる。

\*神は弟子たちに、イエスに聞き従いきなさいと告げる。

\*そしてこの変容を見た弟子たちは、ずっと後になるまでこの経験を話さなかった。

そこにはたくさんのことがある。この聖句にはたくさんの行動が含まれている。

イエスの去ること、最期のこと、存在のこと、これらすべての詳細に私の注意が向く。

イエスはこの世に、ほんの短い期間を存在されている。イエスは亡くなられる。

イエスが聖なる栄光に輝く姿に変容されたその時、まばゆいばかりの光と輝きに包まれる。

それはまた、イエスの最期について論議する時である。

イエスのエルサレムでの死についての論議である。

弟子たちが提案した仮小屋を建てる詳細は、私の心を捉える。正反対のことがある。

イエスは最期について話される。弟子たちは（イエスが）止どまることを話し合う。

今日の疑問を、教会の聖なる時間のサイクル（円を描くように流れる）のなかで見ると、

どのようにしてイエスと出会うのか？ 私たちはどこでイエスとの経験を得るのか？

ロシアがウクライナを侵略したこの週に、私たちはどこでイエスとの経験を得るのか？

この1週間は暴力と死者の報告がなされている。

今月からみなさんが祈って下さる私のいとこKristaは、今週、世を去ろうとしている。

彼女はガンで死につつある、Kristaは私より4ヶ月年上の同じ年代である。

私の子供時代の家族との思い出は、私のいとこの思い出に包まれている。

この1週間はこの節（ルカ9:28-36）を読んでいるのだが、時間を止めたい。

いとこを捉える像を作り上げ、彼女を安心させ、いつまでも付き添いたい。

時間を止め、キエフとウクライナの罪のない人々を守りたい。しかし人々は死んでゆく。

イエスは死なれた。

死は、キリスト教の伝統で特徴的な位置にある。なぜならイエスは死に、我々はその死を祝うのだ。私たちは聖徒たちを、生まれた日ではなくて、彼らが死んだ日を祝うのだ。

初代キリスト教徒は、墓地でパーティーをする伝統があった。墓場でワインを飲み回し、ロックンロールパーティーをして、いつもよい時を過ごすのだ。

聖アウグスティヌス（初代キリスト教の教父）は母親に、墓場での酔いどれパーティーに行くのを止めさせる必要があった。それはキリスト教徒の悪評だったからだ。

今、あなた方は（死ぬ事を）尋ねるかもしれない、なぜ？  
あるいはさらに要点を指摘して、この一週間、私は尋ね続けている、なぜ？

そうである、私たちは死後、永遠の肉体ではなくて、永遠の命があると信じている。  
そうである、聖書は私たちに告げている。私たちは失った愛する人々と再び見える。  
従って死は永遠でなくて、仮の不在である。

しかしそれでも、なぜ？ この一週間は、どうして私たちは死ななければならないのかと  
私は問い続けている。私が学んだすべてのすばらしい神学は、今週ははかない慰めである。  
今週の私はこの瞬間に、もし何か永遠化させる特別なものを喜んで建てることができない  
弟子（ルカ9:33）のように感じている。人、人々の安全に守り、人々を緊密にさせる国家。  
この一週間は、神、弟子たち、イエスが、私の疑問を無視しているように感じている。

私の混乱の暗い影にもかかわらず、神を信頼し、イエスに聞き従えという声が聞こえる。  
イエスは死なれた。死は深遠で重要な何かがある。御言葉が肉となり、私たちの間を  
巡ったなら、そのきわめて重要な経験のもう一つは、死であった。

そして死の恐怖のようにも聞こえる。イエスが山頂で変容され、弟子たちに語られるが、  
彼らは（イエス、エリア、モーセ）は最期を遂げることについて話している。  
イエスはエリアとモーセに何を尋ねたのだろう。私たち自身が死に向かっている時、  
すべての私たちの持っているすべての疑問を、イエスは聞いておられたのか？  
それは苦痛であるのか？ 私に何が起きるのだろうか？  
私が愛する人々に何が起きるのだろうか？

この一週間は、ゲセマネの楽園でイエスが祈っておられたのを思い浮かべていた。  
もし神のご意志であったなら、死の杯、苦悶を取り除いてほしいとの祈りである。  
イエスは死を知っておられたようだ。イエスは死の恐怖を知っておられた。  
イエスは死ぬことを望んでおられなかったようだ。イエスが全くの人間として私たちの間で  
生きられたこと、そしてまた全くの人間として世を去られたこと、とても重要である。

死を知らせる今日の聖句は、大きな圧力となっている。私の心は死の物語で一杯である。

時間のサイクル（聖なる時間は円を描くように流れる）の大切さに再び気が付く。  
以前に聖なる時間は、どのように循環する（サイクル）時間であるかを話した。  
例えば神の国は、今ここにいつもある、まだない、常に進行している。  
全くだ。今日、私はイエスが死につつあると信じる。

なぜなら聖なる時間であり、イエスは死んでゆくすべての人と歩まれる。  
死ぬ時はいつも、私たちと共に死んで下さる。そして私たちの各々の間を、  
死後の神秘的な命に向かって歩まれるのだ。

今日の聖句は、山頂、つまりイエスの命が高いところにあることを示している。  
それは主の栄光が現れる時である。  
イエスが今だ人間である時は、弟子たちにイエスが何であるか、そして何になられるか、  
そしていつもどんな者であったのかを示される。神の栄光。  
弟子たちが仮小屋を建てる時は、聖なる瞬間である。  
ちょうどその瞬間に、イエスは最期を語られる。イエスは死を語られる。

不確実さと嘆きの暗い影のなかで、希望が聞こえてくる。  
私の友達や家族が命から離れる—この瞬間に—イエスが死の過程を進められたと願う。  
従ってイエスはいつもそこに存在され、死から永遠の命へと私たちを歩ませて下さる。

今、どんな時にも神の栄光を仰ぐため、私たちは目を覚ましておく必要がある。  
恐れと不確実さの暗い影が漂うこれらの瞬間も含まれる。  
今日、聖なる時間のリズムとサイクル（円を描くように流れる）なかで癒しを得る。  
そして私たちすべては、いつも、イエスと共にあることを確信する。

(文責長澤猛)